

手作り自慢の「ショップシルバー」



月1回の会議を終えて、22人全員が集めたので記念写真をパチリ

大師町の河内長野市シルバー人材センター事務所南側に小さな建物があるのをご存知ですか。

外観は少々地味ですが、中は手作りの小物や子ども服・手編みのベスト・リフォームの洋服・帽子・革製

品などがぎっしり、花盛り。参加メンバーが自慢の作品を持ち寄って、展示販売しています。毎週月曜から金曜の午前10時〜午後4時まで営業。ふたりずつ交代で店番しています。

第3火曜日に「くろまるの郷」へ、第4火曜日に市役所1階市民サロンに出店しています。どちらも売り場が広いので、当番は4〜5人必要になります。常設ショップに取材で訪

22人作って楽し、売れて嬉しい

平成23年7月に、シルバー人材センターの発案で、10人ほどでスタートしたこのショップ、現在は22人に増えました。2年交代の「店长さん」と世話役さんを中心に運営しています。

今年の店长、石田さんは「メンバーが増えて、お当番の負担が減りました」と喜んでいましたが、連絡を取り合う苦労はあるようです。

月1回、第2火曜日の午前中にシルバー人材センタ

ねた時の「お当番」は坂口文子さんと末本さん。次週の市民サロンの準備で渡辺さんも来ていました。会計担当の末本さんが売上表を作成している横で、坂口さんに色々聞きました。



作品にも合間の作業を楽しむ坂口さん

1〜2階の会議室に集まることになっていますが、ほぼ全員が揃うそうですから、皆さん協力的なのですね。売上金は、90パーセントが製作者の手に入ります。「材料費を引くとあまり残りません」。

残りの7パーセントがシルバー人材センターの事務費に充てられ、3パーセントが「お当番」の報酬。「お小遣いの足しにもならない金額」だと笑っていました。坂口さんのシルバー人材

センター登録は平成16年12月。当時あった「婦人部」の活動が楽しそうと思っただけの参加でした。

その中で、手芸の講習に参加したことや、若い時に紳士服の縫製に携わっていたことが、今、小物を作っでショップに出していることに繋がったそうです。

嬉しい事は？ の質問に「作品を買ってもらえたとき」。納得！

シルバー人材センターで活動しているうちに地域の老人会にも参加することになり、そのどちらでも人との交流が楽しいそうです。

毎朝5時起床で、家事を済ませた後のたっぷりの時間を使って、作品作りに出にと充実した毎日を送っています。坂口さんの作品コーナーにはポーチや腕カバリーなどがたくさん並んでいました。

他の方の棚にも、楽しんで作っていらつしやる事が感じられる素敵な作品が溢れていました。

(桑本 幸子)